



# 地味チョウシリーズ⑤

オオチャバネセセリ *Polytremis pellucida*





▲吸蜜するオオチャバネセセリ (1976.8.6 札幌市一の沢)



▲終齢幼虫の巣

(いずれも1985.7.6 千歳市ママチ)

オオチャバネセセリ。集めている人はいないよね。まあ地味なセセリチョウの代表格でしょう。

また「道新本」の頃の話から始めます。メインのこの写真は相棒辻氏の写真。吸蜜する姿が凛々しいですね。約50年前のポジ写真です。幼虫の写真は兄拓行の野外写真。それぞれいいショットだと思います。

幼生期のことはその頃あまり調べていませんでした。本文には「幼虫はササがあまりにも広く分布し、数も多いのに、本種が集中して産する場所が無いので大変発見しづらい。と言い訳がましい記述があります。たしかに今でもそうで、とくに越冬明け～蛹のころはなかなか見つかりません。ちょっと謎めいた普通種ではあります。では。

# 成虫いろいろ①

オオチャバネに限らずセセリチョウが一番かっこよく見えるのは後翅を水平に前翅を半開きにしたポーズでしょう。葉の先に陣取っているときには前脚を体につける格好になります。まずはそんな勇姿を並べましょう。



白紋が美しい♂ 2007・7・27 標茶



ササ葉上で占有する♂ 2015・8・11 富良野

オオチャバネに出会うのはやはり花の上。山間ではアザミやヒヨドリバナ、草地ではクサフジやクローバー類花の蜜を求めて飛び回ります。翅を閉じたときは、ひょっとしてイチモンジセセリ?と白紋列のギザギザを確認します。



タンポポモドキを訪花 2022・7・8 富良野



同左



ヨツバヒヨドリを訪花 2015・8・5 富良野

# 成虫いろいろ②

オオチャバネの成虫でよく見られる行動に「吸い戻し」があります。吸い戻しで「おしっこ」を出す相手はいろいろ見られます。他のセセリたちにもみられるのですが、人の汗が付いたものにも執着します。下の写真は乾いた石で吸い戻しをしています。この日は暑い日でしたが、となりでシータテハも同じように吸い戻しをしていました。湿ったところで水を飲んで、石の上におしっこをかけて、それをストローで細かく動かしながら吸いこんでいます。何回も繰り返しています。なにかミネラル分でも吸収するのでしょうか。右の写真は家庭菜園のレタスについての朝露を吸っています。これらの写真を見ていると、彼らにとって口吻（ストロー）は大切な器官なのかなあと思います。

乾いた小石の上での吸い戻し 2018・7・18 富良野



葉についての朝露を吸う 2014・7・5 富良野



車の中に侵入してストラップで吸い戻し 2019・7・31 上川町



# 成虫いろいろ③

オオチャバネはコチャバネのように群がるほどには多くはありませんが我が家の周りにも毎年見られます。そんな中の配偶行動が時々観察されます。右上の写真は玄関前で一緒に吸蜜に集まっていたコキマダラセセリのメスにプロポーズする♂です。当然コキマには相手にしませんでした。このような間違いは結構見られます。数日後にはコキマがスジチャの♀にアタックしていました。参考までに紹介しておきます。異種間の交尾拒否も、いつものように♀がパタパタと翅を振るわせて、それでもしつこく迫れば逃げていきます。うまくいった交尾写真は、図鑑発行後やっと撮影できました（右下）。じっとしているのでギョロメレンズで接近してみました。



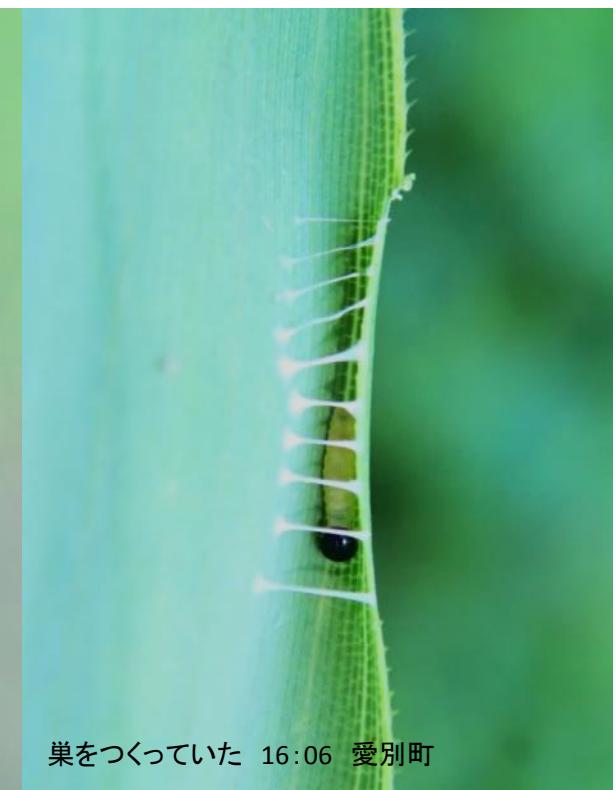
# 産卵

産卵の写真はなかなか撮れません。情けないことに「完本」「フィールド図鑑」の写真は1986年に日高町で撮ったポジ写真を使いました。林道にヒグマの糞がどかどかあり、獣臭がただよう中で撮った記憶があります。オオチャバネの産卵は写真のように葉の上に産んでいきます。なので気が付かないかもしれません。最近産卵だと気が付いて撮影した写真は、普通でないクサヨシへの産卵ポーズでした。今度こそといつも思っています。



# ふ化～巣づくり

卵は比較的大型で産まれたては赤みを帯びています。卵は前のページでも書きましたが、ササに産む他のチョウたちは腹を曲げて葉の裏に産み付けるのとは違いササの葉の表面に産み付けられています。孵化した幼虫は卵殻を全部食べてしまします。孵化した幼虫はササの縁を折りたたんで巣をつくりますが、たまたま最初の巣作りを見る事ができました。愛別町のフィールドに着いた時にふ化した幼虫が葉をかじっているのを見つけました。その後目的のムモンアカなどの撮影をしてまたその場に戻ってみると、しっかりした巣ができて幼虫は中に隠れていきました。食痕はまだありません。まず巣をつくることが大切なのですね。



# 越冬幼虫

「完本」作成のことです。「道新本」からの幼生期の解明がほとんど進んでいませんでした。これはまずい、何とかせねばと産卵目撃から卵さがしに挑みます。なにせササ原はどこにでも広がっています。卵が付いた葉を見つけるのは至難の業です。なかなか出会えない中、雪が降る直前になんとか地元富良野で越冬前の巣を見つけることができました。

(写真下) なまこ山という低山地に送電の鉄塔が走っていてその周囲が管理されにササ原が維持されています。クロヒカゲの若齢の様な食痕が葉の縁にありその横に巣がありました。1か月後巣を開けてみると黄色いんぐりした幼虫がいました。1齢の頭の殻があるので2齢です。いつものことですが一度見つけると次々見つけ出すことができました。



越冬する幼虫の巣 2014・11・29 富良野



褐色の越冬巣（同左）



巣を出て葉を食べる幼虫 2014 10 21 同上

それにしてもこの越冬前の幼虫はいつもの姿とはかなり雰囲気が違います。色も黄色くなっています。冬越しにそなえた耐凍性物質を貯めこんでいるのでしょうか。

なんとか「完本」に間に合い、「いい発見だよ。」と兄に褒められたことを覚えています。その後ピンテを付けて追跡に入りました。



# 越冬明け直後の幼虫

翌年4月28日、越冬幼虫を見に行きました。ササの葉につくられた越冬巣には大きな変化はありません。新しい食痕はありません。まだ寝ているのでしょうか。ヒメギフが飛び出した5月12日に行ってみます。まだ褐色になつた越冬巣の中にいるようです。さらに1週間後に行ってみると、やっと活動を始めたようで新しい巣をつくっていました。その巣の端っこに小さな食痕もありました。幼虫の体は緑色を帯びていて食べた葉が透けて見えています。同じササ食いコチャバネセセリは終齢幼虫で越冬巣を切り落とし、その中に入って雪の下で冬眠します。今頃はもう脱皮して蛹になっているころです。オオチャバネは実にのんびりしたやつです。年一回、夏に蝶になればいいのだからとゆっくり成長しているように見えます。ひょっとすると、6月になつて伸びてくる旬の新葉を食べないとダメでしょうと、若葉が伸びるのを待っているのかもしれません。この頃からどういうわけか越冬明けの幼虫はなかなか見つけづらくなってしまいます。あの「道新本」の新葉を折りたたんだ終齢幼虫の兄の写真はやはり貴重な写真なのです。



# 越冬明け幼虫その後

2015年は5月19日に新しい巣をつくって活動を始めました。下の6月6日の写真では古い越冬巣と新しい巣が同じ葉にあります。古い巣から出て食べた食痕も残っています。なるほどこういう風に活動を始めたのだなとわかります。さてその後です。新葉が出てから作る巣はやっと6月30日に見つかりました（右下）。ただし兄の撮った「道新本」の特徴的な「垂れ下がり」の巣はみつからず、やっぱり兄の古い写真のほうがいいねということでまた使うことにしました。その後も相棒と「垂れ下がり」の巣を探し求めてやっと見つけたのは2018年以降のことでした。これはフィールド版に掲載することができました。



越冬後新しく造った巣 2015・5・19 富良野



新しい巣と古い巣 2015・6・6 富良野

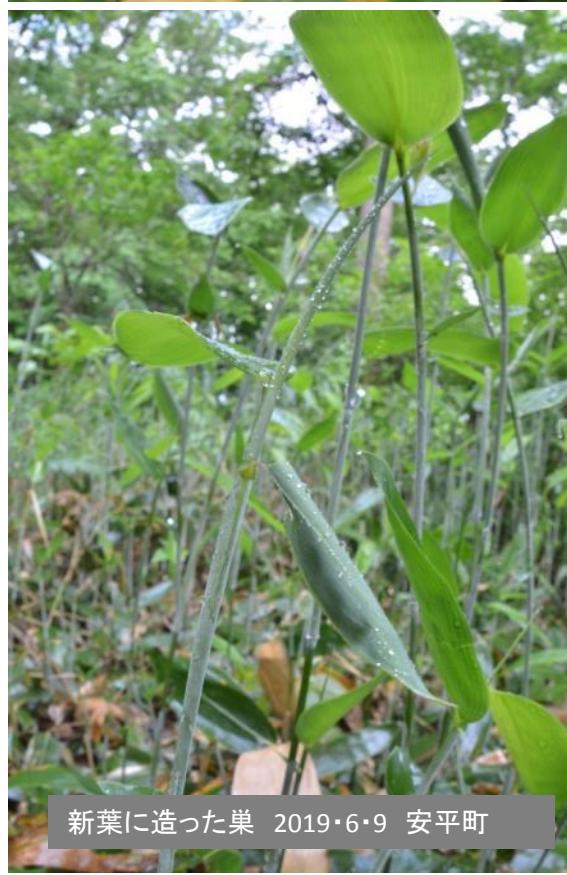


新葉に造った巣 2015・6・30 富良野

# 終齢幼虫～蛹

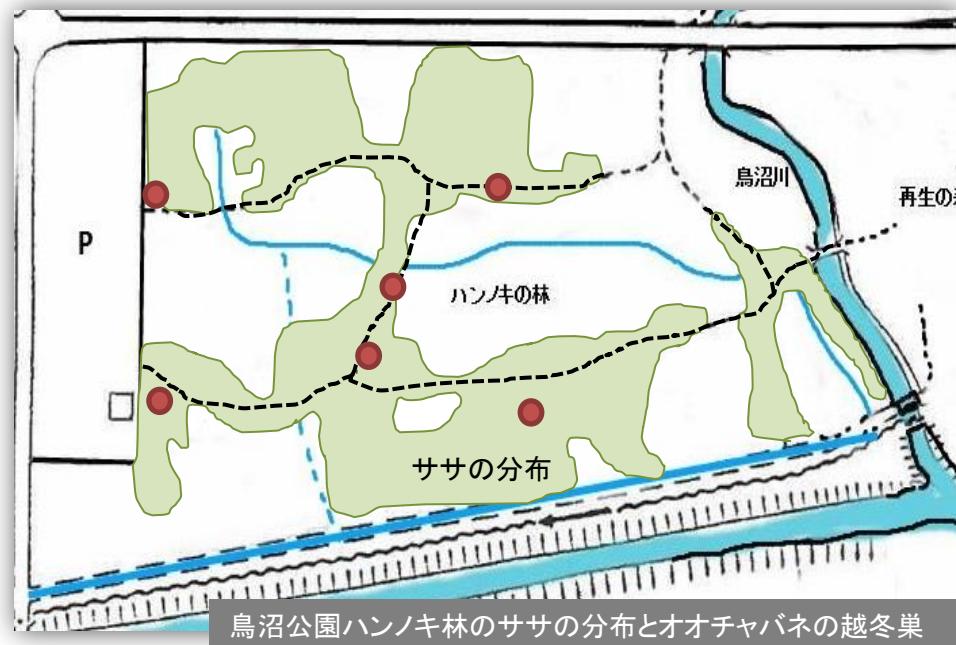
2018～2019年はフィールド版の写真撮影を相棒と芝田さんでバタバタ動き回っていました。北海道の蝶全種の卵から蛹までの現物を調達しなければなりません。垂れ下がった終齢幼虫の巣も相棒と探し回った安平町で撮影できました。オオチャヤの終齢・蛹も何とかゲットしました。やれやれ。

その時からのササ食い幼虫オタクになってしまったようで、現在も相棒は安平～厚真町で、私は近所の鳥沼公園などのマイフィールドで追いかけていました。



# つけたし

さて、最後につけたしです。今追いかけている近所の鳥沼公園のオオチャバネのことです。鳥沼公園は湧水を溜めた鳥沼とその東に広がる低湿地林をそなえた自然豊かな、[富良野の原風景]と呼んでいる自然公園です。ここ数年地下水位の低下で乾燥化が進みハンノキの巨木が倒れ、ミズバショウが枯れササが繁茂してきました。現在その保全に取り組んでいるのですが、その調査の中で今（2025年秋）ササの分布域を地図（右下図：約300m×200m）に落とす作業をしています。調査の傍ら私はササ食い幼虫が気になり蝶の幼虫をカウントしていました。そこで見つかったオオチャバネは赤丸でしめします。結局この区域から越冬巣が6個見つかりました。一緒にクロヒカゲは68個体、コチャバネの食痕が100以上、ヤマキマの若齢の食痕が2か所見つかりました。個体群密度としてはこんな感じでした。やっぱりオオチャバネは控えめな地味な蝶なのですね。



今も、相棒は安平町で、私は富良野で追い続けているオオチャバネ。地味なセセリチョウです。追いかけていればまた新たな発見に出会えるのでしょうか。

To be continued

